クレア支部

2025 安山インターカルチュラル・シティ国際シンポジウム

浜松市企画調整部国際課

（1）インターカルチュラル・シティ・プログラム（ICC）加盟の背景

浜松市は、日本国内でも多文化共生分野に先駆的に取り組んできた都市として、欧州評議会が主導する「ICC プログラム」の新たな動きを注視しながら、世界の多文化共生都市との連携を積極的に図ってきました。2012 年、2013 年には、日本・欧州・韓国の多文化共生都市と共に国際シンポジウムに参加し、互いの知見や経験を共有しました。2017 年 10 月には、本市の目指す、多様性をまちづくりの源泉とする多文化共生の方向性と軌を一にするICC にアジアの都市として初めて加盟しています。

（2）これまでの取り組み

ICC 加盟後、本市は、欧州評議会や ICC 加盟都市との連携を通じて得られた知見や成果などについて、国内外に向け広く発信してきました。国内自治体向けには、2018 年、2019 年にセミナーを開催しました。海外自治体向けには、2019 年 10 月の「都市間連携国際サミット 2019 浜松」開催のほか、2024 年 10 月には、「インターカルチュラル・シティシンポジウム 2024 浜松」を開催し、韓国・安山市やポーランド・ヴロツワフ市が参加しています。

（3）2025 安山 ICC 国際シンポジウム

2025 年 9 月 17 日から 19 日までの 3 日間、韓国・安山市において「2025 安山インターカルチュラル・シティ国際シンポジウム」が開催されました。

シンポジウム 1 日目は、漢陽大学においてプレイベントプログラムが開催され、本市職員もパネリストとして登壇しました。インターカルチュラル・シティにおける大学の役割をテーマとして、取組状況を紹介しました。

シンポジウム 2 日目は、中野祐介浜松市長が「インターカルチュラル・シティの新たなビジョン」をテーマとするセッションに登壇しました。イ・ミングン安山市長やリタ・マラスカルキ欧州評議会インターカルチュラル包摂ユニット長と共に、互いの取組事例などを共有し、これからの多様性を生かした包摂的なまちづくりについて活発に討議しました。

パネルディスカッション

（4）今後に向けて

都市間連携のメリットには、共通課題への共同取組やグッドプラクティスの共有があり、多文化共生都市としてのブランディングにも貢献が期待できます。本市では多文化共生を市の特長とし、国際的な知見を政策に反映させることで、さらなるブランディングの強化につなげています。

今後も多文化共生を本市の特長・強みとして生かし、海外の多文化共生都市との連携を通じた相互の課題解決や、多様性を都市の活力とした包摂的なまちづくりを進めていきます。

インターカルチュラル・シティ共同声明